

# 金沢大学法学類月報

第 22 号 2015 年 9 月 25 日発行

編集・発行：金沢大学法学類広報委員会  
協力：金沢法友会法学類広報プロジェクト



日増しに秋めいてきましたが、いかがおすごしでしょうか。法学類月報第 22 号では、このほど金沢大学を退職される西岡晋先生のご挨拶、滋賀県立虎姫高等学校との高大連携講座のレポート、法学類 1 年生から寄稿をお届けします。

## ◆ 退職に寄せて ◆

みなさん、こんにちは。早いもので、2007 年 11 月に金沢大学に赴任してから、8 年弱の月日が流れました。東京から金沢に来た最初の冬、何に一番驚いたか、といえば、雪、ではなく雷で、稲光の鮮烈さと雷鳴の轟きにはたいそう驚きました。雷は「夏のもの」という、それまで私が抱いていた観念は根底から覆されました。そしてもう一つは、魚の美味しさです。ことに、当地で食したブリ刺しの、そのプリプリとした食感と適度にのった油が醸し出す甘みと滑らかさは、すぐに私の舌を虜にしました。

これらの極私的経験においてさえも、学問への入口に立つ上で欠かせない発心の契機が含まれております。自らの知らない土地に来、この狭隘な日本においてさえも、その気候と食材において大いなる差異や多様性が存在することを感得しました。「違い」の発見は自らの経験や体験を相対化させ人を謙虚にさせるとともに、「違い」への関心は知的好奇心を育む養分となりえます。

「相異」ではなく「類似」への気づきでもよいのですが、ともあれ、このような発心の契機は至るところに潜在しています。それらを感知し、学問の扉を開き、その面白さに触れることができれば、大学に在ることの価値は大いに高まるものと思います。

私はこの 9 月末をもって金沢の地を離れることとなりましたが、歴史と文化が息づき、新旧の風景の交錯が比類なき魅力を作り出してきた街、金沢で、そして伝統と格式ある金沢大学で自身の職業生活をスタートさせることができたのは、僥倖というほかありません。お世話になりました。それでは、みなさん、お元気で。

西岡 晋 (10 月より東北大学法学部に異動)

## Current News

最近の出来事から

### 独自教材による実践授業 ～高大連携講座より～

法学類では、8 月 20 日(木)、21 日(金)の両日、金沢大学と滋賀県立虎姫高校との高大連携講座の一環として、金沢法友会法教育研究部会の学生が自主制作した教材を使って法教育の実践授業を行い、合計 34 名の高校生が参加しました。今回は、「契約を守る？破る？」というテーマで、契約は守らなければならないのはなぜか、他

方でクーリング・オフのように、契約を守らなくてもよい場合があるのは、いったいどういうことか、を考える授業でした。法教育の中でも、このふたつをきちんと結び付ける試みは、ほとんど前例のないパイオニアワークのようなもの。しかも身近な問題であるにもかかわらず、ある意味で当たり前すぎることなので、よく考えてみると説明するのはとても難しいことです。大学生でもなかなか十分には理解できないことを、高校生に分かるように伝えるために、準備段階から数々の苦労があったようです。



実践授業を担当した学生は、「高校生が授業を楽しそうに受けている姿を見ているうちに、今までの苦労が幾分か報われた気がした」、「教科書や大学の授業では少ししか触れられていないことの背景にあるものに触れて、これから法学、特に民法の勉強を進める際の視点が得られた」などと話し、高校生だけでなく学生にとっても実りある授業となったようでした。

福本知行（法学類広報委員長）



### 「前期を通じて学んだこと」

高校から大学へ進学するのに伴って多くの変化がありました。まず、一人暮らしを始めるという生活面での変化、次に、高校とは異なり、自分で学びたい講義を選択するという学習面での変化です。その中でも、知識を活用する力が求められるようになったということが大きな変化だと思います。高校まではセンター試験に代表されるような一問一答形式の問題や短文記述が多かったのですが、大学では「あなたの考えを書きなさい」と両面白紙の紙が渡されることが多く、はじめは戸惑いました。しかし、大学での講義を通じて、様々な観点から考える力や自分の考えをまとめる力、分かりやすく説明する力が身についてきたと感じます。

講義の中で特に印象に残っているのは、大学・社会生活論で行われたプレゼン大会です。僕たちの班は「男女間格差を是正する」とい

うテーマでプレゼンを行いました。班で作業をする中で、同じテーマであっても様々な見方が分かることになり、それらをまとめていくのはとても楽しかったです。プレゼン大会では審査員の方からの鋭い質問にドキドキしつつも、班の意見を分かりやすく伝えて理解してもらおうということを中心にしました。なかなか体験できない貴重な時間を過ごすことができました。

前期の講義を通じて、様々な視点を持つことの重要性や、意見をまとめ、相手にわかりやすく伝えることの重要性を学ぶことができました。これらの力は大学の講義はもちろんですが、様々な経験によって身につくものなので、これからも大学での講義や日常生活、サークル活動を通じて様々な知識や考え方を学んでいきたいです。

木下延大（法学類1年生）

- 法学類の学生、卒業生、教員に関するイベント等の情報を、ぜひお寄せください。
- 関係者の皆様のご寄稿を歓迎します。採用された方には、法学類グッズを進呈します。
- 本誌のバックナンバーは、金沢大学法学類 Web サイトに掲載していますのでご覧ください。（<http://www.law.kanazawa-u.ac.jp/home/geppo>）  
また、メールでの定期配信（無料）をご希望の方は、金沢大学人間社会系事務部学生課 法・経済学務係 ([n-hkgaku@adm.kanazawa-u.ac.jp](mailto:n-hkgaku@adm.kanazawa-u.ac.jp))までお申し込みください。
- お読みになってのご意見ご感想は、上記メールアドレスまでお寄せください。